

平成 23 年度第 2 回都道府県地域がん診療連携拠点病院および東京都認定がん診療病院研修会(放射線技師等)の報告

がん研究会有明病院 治療放射線部 佐藤智春

- 開催日時：平成 23 年 12 月 3 日（土） 9:50～16:20
- 開催場所：がん研究会研究所 1 階 吉田講堂
- テーマ：「IMRT の治療計画（前立腺・頭頸部）」
- 目的：代表的な IMRT の照射部位である前立腺と頭頸部について、IMRT の治療計画におけるコンツリーング、プランニング、計画評価を中心に学び治療計画の実践に役立てる。
- 参加者： 38 施設 125 名（拠点病院以外の 5 施設 20 名を含む）
- プログラム：

9:50～10:00 開会の挨拶

10:00～11:00 基礎講座「外部放射線治療装置の QA」

公益財団法人がん研究会有明病院 橋本 竹雄

11:00～12:00 ランチョンセミナー「多列半導体検出器型線量検証システム デルタ 4」

ユーロメディテック株式会社 瀧本 健二

13:00～14:30 IMRT の治療計画（前立腺）

弘前大学大学院 成田 雄一郎

14:40～16:10 IMRT の治療計画（頭頸部）

公益財団法人がん研究会有明病院 吉岡 稔

16:10～16:20 閉会の辞

- アンケートの結果：回収率 82%（103 人／125 人）
 1. 各講義内容について、「よく理解できた」または、「まあまあ理解できた」と回答した受講生は、講義順に 94%、83%、94%、82%となり、本研修会の目的は概ね達成できたと考える。
 2. しかし今回「よく理解できた」と回答した受講生の全講義の平均値は 32%（26%～42%）となり、一般的な治療計画をテーマに行った前々回の研修会の 38%（32%～47%）と比較して低い値を示した。これは IMRT の治療計画が特殊であり難易度が高いことによるものと思われる。
 3. 治療関連の認定取得状況については、放射線治療品質管理士 26%、放射線治療専

門技師 29%、医学物理士 19%という結果になり前回とほぼ同じであった。

4. またこれら認定を取得していない受講生の中で、今後取得したいと回答した者が放射線治療品質管理士 71%、放射線治療専門技師 81%、医学物理士 56%いた。特に放射線治療専門技師への関心は高く、今後本研修会に参加することで治療専門技師の単位認定取得を可能にする事は受講生にとって大きなメリットがあると思われる（ただし治療専門技師のポイント取得のための研修会側の条件は 5 年間継続させることが必要であり、本研修会は後 2 年不足している）。なお、放射線治療品質管理士については前回の研修会から認定更新時の単位が認められている。

➤ 受講生の意見と要望（13 件）

- 1) QAQC や線量検証時の問題解決方法について知りたい
- 2) 体幹部定位照射を取り上げてほしい
- 3) 装置立ち上げについて取り上げてほしい
- 4) 大変勉強になった（6 件）
- 5) プログラムが良い（2 人）
- 6) 講義間の休憩時間を長くしてほしい（現行は 10 分）
- 7) 講義時間が少し長い（今回は 90 分）（2 人）
- 8) 回を重ねるごとにステップアップする講義内容が大変良い
- 9) 今後も初歩からのわかりやすい講義を続けてほしい
- 10) VMAT の線量検証が複雑で大変な事がわかった

以上